

令和4年4月28日

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

宮城県		
学校名	管理機関名	設置者の別
宮城県多賀城高等学校	宮城県教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学校名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
宮城県多賀城高等学校	<a href="https://tagajo-hs.myswan.ed.jp/page_20210819034206">https://tagajo-hs.myswan.ed.jp/page_20210819034206</a>

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学校名	自己評価結果および学校関係者評価結果の公表 URL
宮城県多賀城高等学校	<a href="https://tagajo-hs.myswan.ed.jp/page_20210819034206">https://tagajo-hs.myswan.ed.jp/page_20210819034206</a>

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- 一部、計画通り実施できていない
- ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

なし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- 実施していない

<特記事項>

地域住民及び企業・大学等の有識者等で組織された学校評議員会を年2回開催し、

本校の教育活動及び教育課程全般の自己評価等に対して、外部評価者からの指導・助言の機会を設けており、改善につなげている。

#### 4. 実施の効果及び課題

##### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、地域社会の諸課題を災害・防災・減災の視点で捉え、変化する社会に対応する人材を育成するための教育を行うものである。多様な諸課題に対して、様々な立場で主体的に行動する「人の命とくらしを守り、持続可能な未来を創造する」人材の育成を目指す上で、災害科学科だけではなく、普通科においても課題解決型の教育活動を推進しており、特に「くらしと安全A」及び「情報と災害」は基幹科目としての位置づけである。生徒に対する質問紙調査の結果から、これらの科目の履修によって主体的な学習態度が身に付き、考察力を備え、知識の深まりを体感したことが窺えた。

「くらしと安全A」を展開する中で、生徒の変容をシステム思考により評価するなど、担当教員を中心に組み組んでおり、今年度中の検証をもとに次年度も、学習効果や成果を組織としてまとめることを目標としている。

##### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

既存の教科・科目の学習内容に加え、専門的な知識や技術、技能等を深めさせ、主体的に社会の形成や社会に果たすべき使命を自覚させることで、防災・減災にも対応できる能力や、生命尊重の観点から、「命とくらしを守る」ことを柱に、東日本大震災の教訓を伝承する上で必要な力、災害時における情報活用能力を育成することができた。

#### 5. 課題の改善のための取組の方向性

自然災害、防災・減災を軸とした合科的科目をとおし、汎用性の高い資質・能力の育成を図り、上記の科目と巡検等の体験的な学びの接続を深め、その検証を行う。さらに、3年間を見据えた課題研究との関連や、生徒の資質・能力の向上を目標とし、カリキュラム・マネジメントの視点で改善することで、生徒の主体的な態度や思考力の育成に繋げることができると考えられ、その実践を行うこととする。今年度実践を行った、学びの効果を引き出すことを目的としたルーブリック評価、生徒の変容を多角的に捉えるためのシステム思考やテキストマイニングによって指導と評価の一体化を図ることができたことから、今後もこれらの研究を深め、組織的に運用し、調査結果を分析したい。

また、授業におけるICTの活用も充実し、次年度入学生は全ての生徒がタブレットを所持することから、今後もICTの効果的な活用についての研修等を行い、災害の状況を捉え、講義形式の学習活動を今後も展開し、防災教育を手立てとした、より深い学びを目指し、高い思考力、判断力、表現力の育成に努めたい。